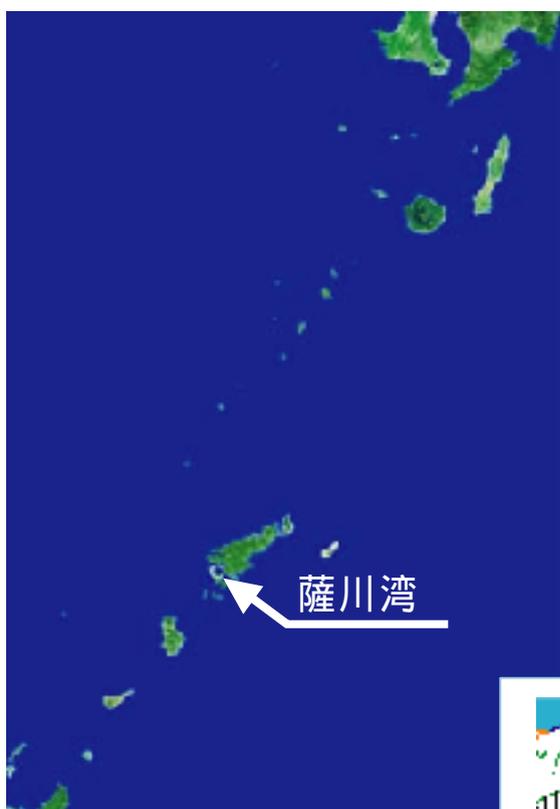


海域の概要

本湾は、奄美大島南側の加計呂麻島北部に存在する湾で、西部を大島海峡に開いています。湾奥には瀬武港があります。湾内では真珠の養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：2.13 km

面積：15.59 km²

湾内最大水深：7.4 m

湾口最大水深：7.4 m

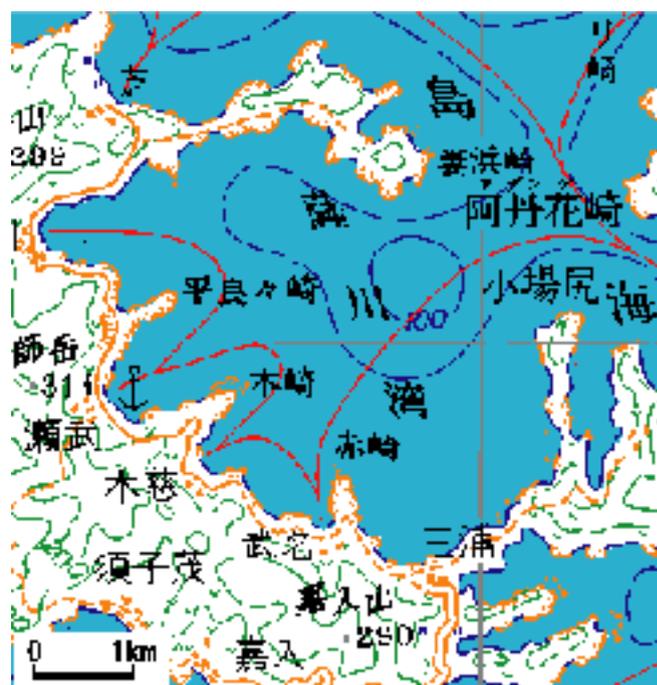
閉鎖度指標：1.85

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

鹿児島県大島郡瀬戸内町小場尻と同町デリキョンマ崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

奄美大島南部の加計呂麻島中央部に位置し、湾口を大島海峡に向けて北東に開いている湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

湾内の沿岸一体では、真珠・もずくの養殖が行われており、大きな集落も流入河川もなく、水質は良好です。

底質は、砂またはシルト・粘土となっています。

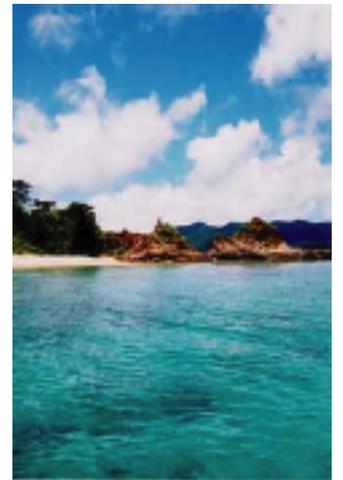
自然

奄美大島と加形呂間島の間の大島海峡に面した湾で、湾奥部を除き奄美群島国定公園に指定されています。

大島海峡のサンゴ礁の海底の景観は亜熱帯性海洋性観光資源として高い評価を受けており、湾中央部付近にコゴシマ、中曽根、マドロ根などのサンゴ礁でできた険礁があります。

大島海峡に大きな口を広げている薩川湾の入り口に、沖の方まで薄いグリーンの絨緞を引き詰めたような白浜が広がっているのを見ることができます。

岬の上には、昭和天皇の行幸記念碑が立っています。



薩川湾鳥瀬

文化歴史

薩川湾は水深が深い天然の良港であり、戦時中は軍港に利用され、連合艦隊の錨地として大和を始め多くの艦艇が錨を休めた場所です。

現在も台風時の避難港として役割を果たしています。

産業

湾奥には、瀬武港があります。

加計呂麻諸島の産業は、農業が中心で、サトウキビを基幹作物に、ニンニク等の野菜や畜産との複合経営が行われています。水産業では、クロマグロの栽培漁業プロジェクトが行われており、加計呂麻島仲田浦の湾を仕切り網で仕切り、大規模親漁養成施設を設け、安定的に良質で大量のクロマグロ受精卵の確保に努めています。また、静穏な海域を利用しての真珠の養殖が行われています。

また、最近は観光面にも力が入られています。



クロマグロ